

平成23年度 附属学校研究支援経費 による研究成果概要報告書

報告者氏名・所属	奥崎 敏之 附属函館中学校副校長
研究期間	平成23年 4月 ～ 平成24年 3月
プロジェクトの名称	学習の評価に関する情報の電子的な蓄積と、その利用に関する研究
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に○を付す こと	相田 幸男 函館校教授・附属函館中学校長 奥崎 敏之 附属函館中学校副校長 三津橋 ゆかり // 主幹教諭 阿部 智子 // 教諭 黒田 諭 // 教諭 張石 卓司 // 教諭
成 果 の 概 要	
<p>本プロジェクトでは、生徒の思考力・判断力などの高次な学習活動を記録し評価するための新しい手法の開発を目指した。この取組では生徒の作品や取組の様子を電子ファイルや動画などの映像によって蓄積し評価情報として利用していくことが鍵とみられており、こうした評価情報について電子的な記録の有効性についての検証を行っている。</p> <p>23年度は特に生徒のテスト結果の電子的保持、レポートなどの課題の記録などについて取り組んだが、ADF付き（自動紙送り）の機材では1クラス40名の答案用紙が数分で取り込めることや、記録後の pdf 形式のファイルによる保管が大変便利で、生徒の学習の躓きなどを遡って確認できるなど、これまで紙のコピーでは容易でなかった簡便性・経済性と優れた保管性をもった記録方法であることが確認できた。</p> <p>また、生徒のレポートの記録にも活用を行ったが、レポートの図に着色したものなどについては、カラーの状態でも電子的に保存することができるなど容易に学習状況の記録ができた。生徒のルーズリーフノートなどの紙媒体も同様に ADF などを使って記録することができ、評価情報として保存・活用する場面では、電子的な蓄積のもつ圧倒的な利便性を確認することができた。</p>	
成 果 の 公 表 の 状 況	
国研の指定が23・24年と2カ年に渡っており、23年度は特に公表を行っていない。	
教 育 現 場 で 活 用 可 能 な 分 野 等	
各教科のテスト結果の記録、ノート（A4版までのルーズリーフ）やレポートなどの記録に活用可能である。	
配付可能な資料の有無	指定研究の中間年度であり、特に資料の提供やドキュメントの掲載などは行っていない。
ダウンロード可能なドキュメント	指定研究の中間年度であり、特に資料の提供やドキュメントの掲載などは行っていない。
問い合わせ先	責任者：奥崎敏之（副校長） 電 話：0138-46-2233 F A X：0138-47-6769 mail : hak-fuchu@h.hokkyodai.ac.jp